

「よくやった」

町の誇りだ

押尾くん

成東高

# 甲子園へ地元応援団が続々

へ乗りこみ声を限りの大声援をおくりました。

関東一の剛腕といわれ、

全国でも屈指の右の本格派といわれた押尾君は、試合

度胸も満点、地元の熱い声援にこたえて評判通りの怪

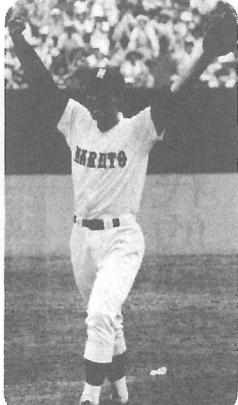
童ぶりを発揮、見事に初戦を飾って、アルプススタン

ドから内外野席までを埋めつくした溢れんばかりの大応援団を狂喜乱舞させました。

第二戦は、初戦以上の力投をみせましたが球運味方せず

アンラッキーが続き、惜しくも第三戦へ駒を進めることができませんでした。

「これほどまでにグラウンドとスタンドが一体となり、まさにるつぽと呼ぶにふさわしい熱狂の場をつくった



涙の熱投で全国のファンを魅了した押尾投手



あざやかな赤白のチューリップハットで声援をおくる、地元上町応援団のみなさん

春先に痛めたヒジが完治せず、持ち前の豪速球で全力投球できなかった悔しさからか、最終回は涙の投球――

その姿に大きな感動をうけた大観衆から「オシオ」「オシオ」の大コールがこりこり、

試合終了後も、その健闘をたたえる拍手はしばし鳴り止まず、いつまでも銀傘にこだま

していました。

試合をみたことがない。、初戦後の作詞家阿久悠氏の言葉

ですが、歓喜と涙でつづった思い出の夏は、甲子園という

大舞台の中で、郷土が一つになつての人の和をもたらし、

さわやかに過ぎ去りました。押尾君！すてきな夏があり

がとう。横芝町の名を全国に広めてくれてありがとう。

## 怪物くん エピソード

よりすぐりの甲子園球児の中でも、ひとときわ注目を集める逸材だけに、怪童ぶりを示すエピソードは多い。

少年野球で指導をした水野忠征さん（東町）によれば、小学一年生で既に六年

生以上の遠投力があり、高学年になると、もう大人でも捕球が怖かったそう。

女房役を務めた八角君は初めて押尾君の投球をみて

「これが同じ人間の投げる球か」と腰を抜かしたとか。

あまたの野球学校からの強い誘いを除け、あえて進学校の成東を選んだのも本人の選択。決して強力とは言えないチームを引っ張り

誰もが果たせなかった甲子園を実現させたのだから正しく怪物だ。

恵まれた素質と強運で一気に登りつめた甲子園だが、最後にみせた純真さは感動

的で、素晴らしい人間性をみ

た思いがした。大成を祈ってやまない。

〔K〕